

かった時代に、ゴッホの絵は50フランでも全く売れませんでした。貧乏画家のゴッホは弟に生活を助けてもらい、タンギー爺さんに絵具を融通してもらって、モデル料のいらぬこの爺さんを相手に何枚も絵を描いています。

この頃彼は日本の浮世絵に魅せられて、歌川広重の「大橋あたけの夕立」を模写して、「雨の大橋」という作品を残しています。



35才の冬バリを出て、南仏アルルに行き、かの有名な「ひまわり」の絵を10点程描いています。その中の1点が、1987年ロンドンのクリスティーズでのオークションで、安田火災海上保険によって58億円で落札され、世界中の話題となったことを御記憶の方も多いと思います。1997年10月には、この絵が贋作ではないかと騒がれましたが、それも1件落着きました。「ひまわり」の絵はバブル崩壊後の現在も新宿の安田火災東郷青児美術館にあって、目玉作品として人気を博しています。この絵の公開後年間の入場者数が一気にそれ迄の10倍の20万人台に膨れ上がったと言うことです。



ゴッホはバリからゴーギャンを呼び寄せ、共同生活をして芸術制作に励もうとしましたが、躁鬱病で感情の起伏が大変激しかったのと、他方ゴーギャンも強烈な個性の持ち主であったために、2ヶ月後には対立し合うようになって、ついに破局を迎えました。

35才の12月、ゴッホはゴーギャンを剃刀で傷つけようとした後、発作的に自分の耳を切り入院します。

36才の時には自ら進んで精神病院に入院しています。

37才の5月北フランスのオヴェール・シュル・オーワーズに移り、最後の主治医ガジェの世話になります。「医師ガジェの肖像」は1990年クリスティーズのオークションで、史上最高値の115億円で大昭和製紙の斉藤氏に買われたのは有名な話です。

37才の7月麦畑の中でピストル自殺を試み、その2日後に帰らぬ人となりました。炎の様に燃えあがり、燃え尽きた享年37才の短くも激しい人生でした。



## 卓 話

“一陽來復 ～中国5000年の知恵～”

竹村亜希子



中国5000年の知恵としました

が、易の思想ははつきりいってわかりません。易经そのものは世界最古の書物です。易はこの世の中を陰と陽に分けていこうという考えで、陰と陽のマークは、男性と女性のを型どったといわれています。陰が大だとしたら陽は小、積極に対し消極、男に対し女ということです。

陽がもっとも強くなった時は季節でいうと、月が一番長い日、夏至です。陽がもっとも盛んになった瞬間に陰が来ます。陰が陽を侵食していく、日の時間が少なくなっていく。日が短くなった瞬間が冬至です。これが、一陽來復です。

陰の強い時は低迷した瞬間で景気が悪いのです。今年は冬至は過ぎただろう、春がめぐってきて上向きといたいところですが、陽がきわめて弱いのです。逆の場合、6月22日になった瞬間に陰が来ます。この陰が曲者。男性の中に女性が一人入りこむようなものです。陰は最初弱いのでこわさがわからず、つい軽く見てしまいますが、この陰は必ず育っていく、陽を滅ぼします。“君子は占わず”という言葉がありますが、みんな易经を読んでいたからなのです。この兆しを逃さないようにすることが大切です。

○このウィクリーは再生紙を使用しております。

かいつ生きたらぬ